

その「気づかない」「気まずい」になっているかも。



エスカレーターで立ち止まるように呼びかけるキャッチコピーを考えた講義(京都市左京区・京都芸術大)

歩きエスカレーター コピーで止めよう

エスカレーターで歩かないように訴えるポスターのキャッチコピーを考える講義が、京都市左京区の京都芸術大で開かれた。「隣を歩かれると怖い」という人たちの声を受け、マナー向上に取り組み府理学療法士会が協力を依頼した。学生たちは、多くの人が両側で立ち止まりなくなる言葉を探して知恵を絞った。

リハビリの専門職でつくる同会は2019年から啓発活動を展開。コピー制作を学生に依頼するのは2回目で、前回は優秀作でポスターを作り、市営地下鉄の駅に掲示した。10日に開かれた講義には学生34人が参加した。企業広告などで活躍するコピーライターの池端宏介さんが指導し、同会メンバーの理学療法士は障害により立っているのが不安定な人の恐怖心などを伝えた。学生たちは、歩く人のためにエスカレーターの

片側を空けることがマナーとされてきた常識を転換しようとコピーを練った。

「速いつて危ない」「その『気づかない』『気まずい』になっているかも。」「実は、1人止まるとみんな止まれる」などの力作が次々と生まれ、池端さんが講評していった。

同会は今年も優秀作でポスターを作る予定という。「若い人にもマナー向上の活動を知ってもらい、全ての人に優しいまちづくりが広がってほしい」と話していた。

(高橋道長)

京都芸術大で講義

学生らが力作披露